



これからの

松本平広域公園陸上競技場

設計コンセプト：敷地いっぱい使いたおせる活動の広場

公園とまちに開かれた陸上競技場

- ・北アルプスの山々と空港滑走路に呼応し、平行に配置された陸上競技場
- ・大会のない平日は公園と一体的に利用できるフレキシブルな管理区画
- ・街から競技場まで一直線につながるマラソン走路
- ・滑走路とフィールドを一望できる、公園と一体のバックスタンド大屋根デッキ

陸上競技のための陸上競技場

- ・フィールドと客席の距離が近く、誰もが競技の臨場感を楽しめるスタンド
- ・選手と観客、大会運営者の声から生まれた新しい競技施設レイアウト
- ・掘り下げられたフィールドと、防風林、逆走路の整備による総合的な卓越風対策
- ・雨や日差しから選手・大会運営者を守るフィールドレベルの周回通路

一年を通じ、誰もが使える運動と活動の拠点

- ・フィールドを臨む、誰もが使えるトレーニングルーム
- ・季節や天候に左右されず使える 130m × 5 レーン雨天走路と、棒高跳び可能な屋内練習場
- ・公園やテニスコートの利用者も使えるバックスタンドの大屋根
- ・日常的な公園利用から週末のイベントまで、多目的に使えるアウトフィールド

主な施設の概要



メインスタンド・アルプススタンド

屋根下固定席と車椅子席のあるメインスタンドでは最前列にてトラックの間近で観戦できます。末広りのアルプススタンドと合わせてゴール付近では観客席が集まります。



メインスタンドコンコース・エントランス

公園の園路と連続したコンコースは待機スペースとしても利用できる屋根下空間が広がります。エントランスではヴォールト屋根がロータリーから人々を迎え入れます。



バックスタンド・大屋上

奥行きの深い観客席と車椅子席を設けたスタンドです。観客席にかかる大屋根下には公園まで雨や日差しを遮る軒下空間が、屋根上は競技や山々を眺む広場空間が広がります。



トレーニングルーム

公園の木々やフィールドの競技を眺む開放的な環境でトレーニングをすることができます。他の諸室とは独立しているため他の用途に活用することも可能です。



雨天走路

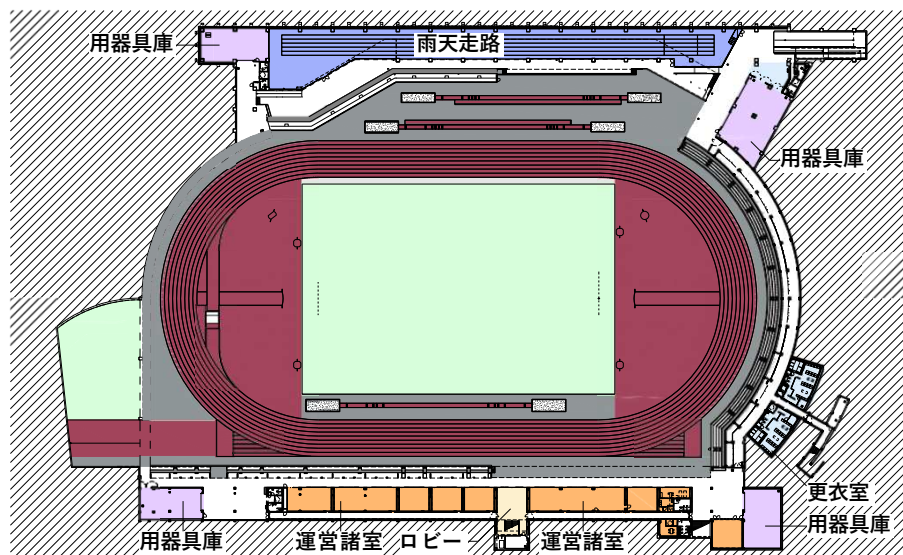
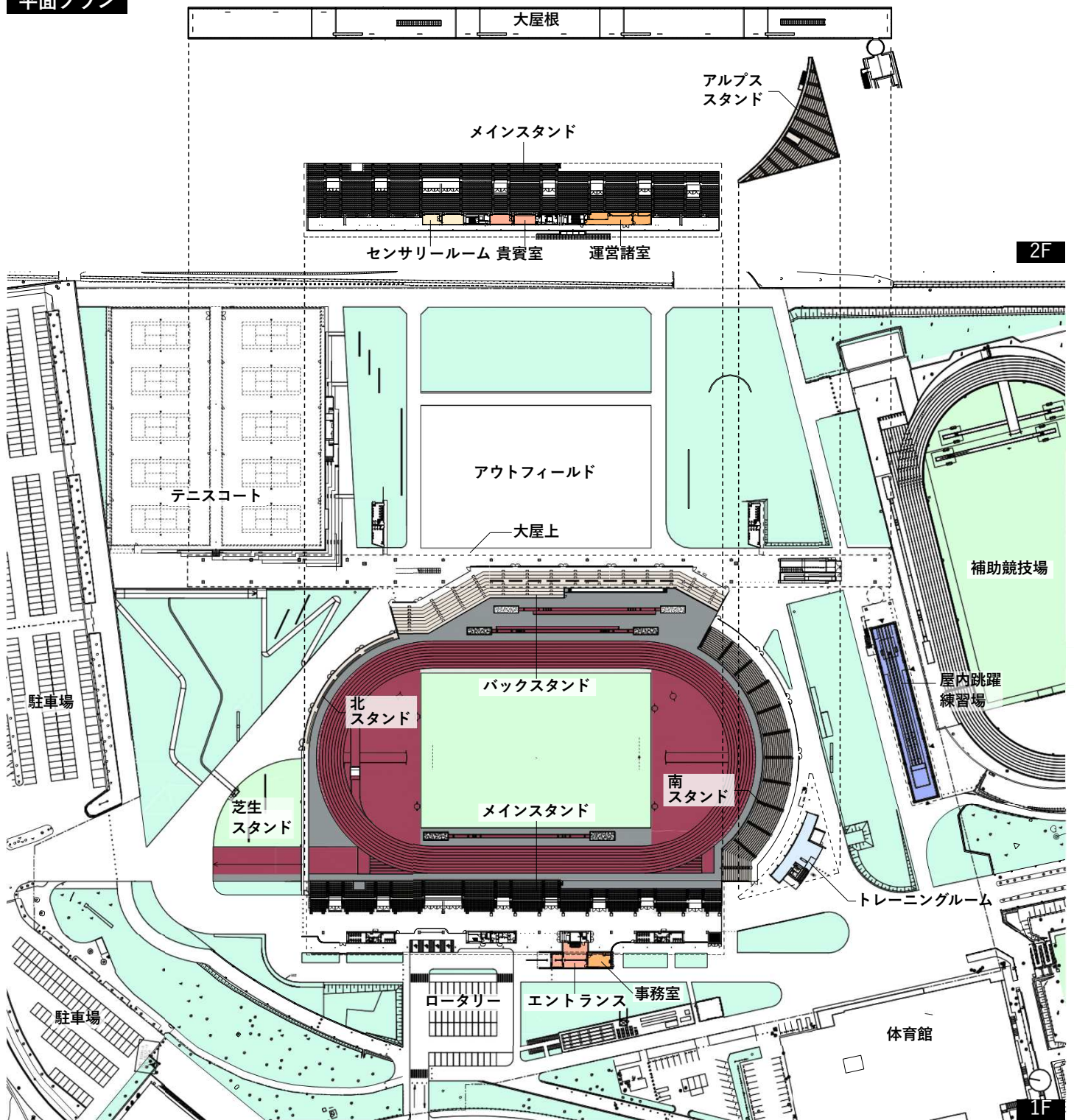
ハードル競技も練習可能な 130mx5 レーンを確保しています。フィールド側に開けているので、競技の雰囲気を感じられ、間仕切りの開放により風が通り抜けます。



屋内跳躍練習場

冬季・雨天時でも棒高跳びや三段跳びを含めた跳躍競技を練習することができます。補助競技場に面した屋根下の休憩・待機スペースとしても活用できます。

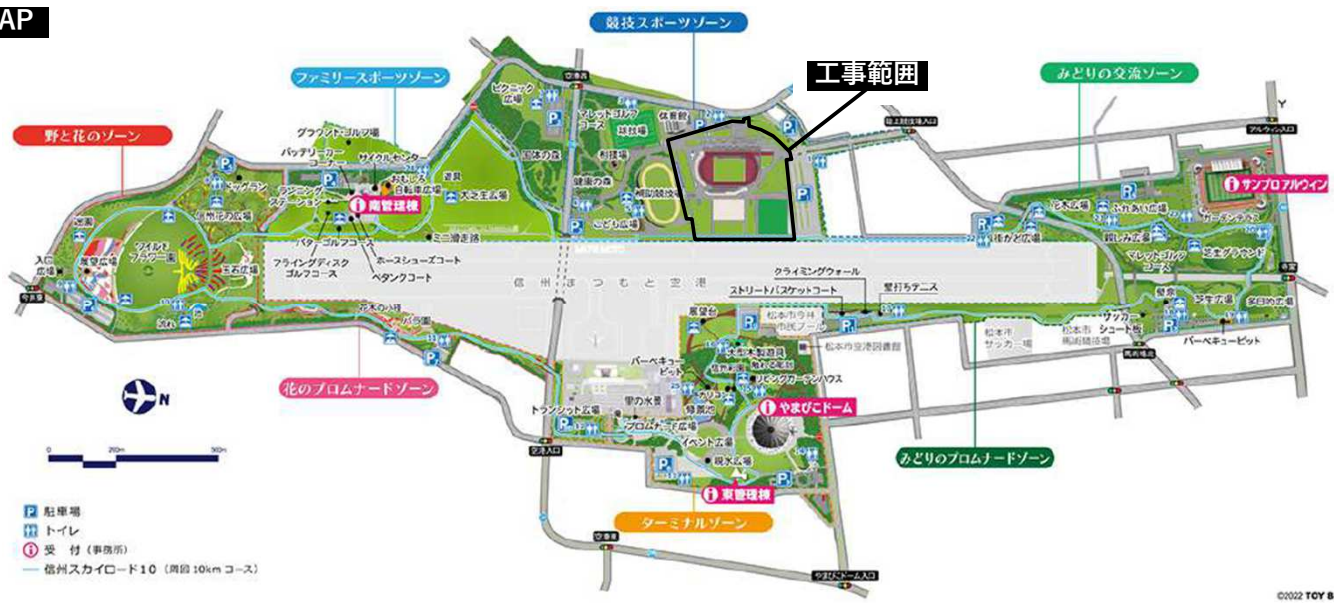
平面プラン





北東よりみた俯瞰イメージ

MAP



©2022 TOY BOX

スケジュール

2020 年度 /R2	2021 年度 /R3	2022 年度 /R4	2023 年度 /R5	2024 年度 /R6	2025 年度 /R7	2026 年度 /R8	2027 年度 /R9	2028 年度 /R10
基本設計 (R2.9~R3.7)	実施設計 (R3.9~R5.2)							
		仮設・除却他工事 (R4.7~R5.11)	本体工事 (R5~R8)					
					外構工事 (R7~R8)			
						プレ大会・リハーサル大会等 (R8~R9)		
								国スポ全障スポ (R10)

※現時点の予定であり、今後変更となる場合がある

計画概要

所在地	松本市大字今井（松本平広域公園内）
主要用途	観覧場（陸上競技場）
構造	RC + S造
階数	地上2階、地階1階
建築面積	14,418 m ²
延床面積	18,476 m ²
収容人数	約15,000席
その他	第1種公認陸上競技場仕様に適合

設計・施工

設計者	AS・昭和設計共同体
施工者	
建築工事	清水・松本土建共同企業体
電気設備工事	(株)アイネット
衛生設備工事	ルピナ中部工業(株)
空調設備工事	(株)大和ホーム工業
競技施設整備工事	松本土建株式会社
大型映像装置設置工事	丸山電業株式会社